## ３　まとめ

### Ⅰ．回答者の属性について

本調査の回答者については，女性の回答が男性よりも多くなっており，年齢については「71 歳以上」が 15.5%と最も多く，次いで「66～70 歳」が 11.5%，「61～65 歳」が 11.2%と回答者全体の約４割（38.2%）が 61 歳以上となっている。

居住地区については，「馴柴小学校区」が 15.9%で最も多く，次いで「八原小学校区」が 13.8%，「龍ケ崎小学校区」が 11.1%，「久保台小学校区」が 9.0%，「城ノ内小学校区」が 7.5%の順となっている。

居住年数については，「20 年以上」が 63.8%と最も多く，次いで「10 年以上 20 年未満」が 21.4%，「5 年以上 10 年未満」が 7.2%と，居住年数の長い市民の回答が多くなっており，居住歴が 10 年以上の人が回答者全体の約９割（85.2%）を占めている。

前住地については，「ずっと龍ケ崎市」が 28.0%と最も多く，次いで「茨城県内（龍ケ崎市以外）」が 26.0%，「千葉県」が 15.1%となっており，回答者全体の約７割（69.1%）が龍ケ崎市以外からの転入者となっている。

### Ⅱ．市全体の印象について

龍ケ崎市の住み心地やまちへの愛着については，前回調査（平成 26 年度）に比べて「住みよい」と感じている人は 2.2 ポイント低く，まちへの愛着（「いつも感じている」）では 1.3 ポイント高くなっている。

また，龍ケ崎市の良いところ，好きなところでは「豊かな自然がある」「災害の危険性が少ない」「買い物などの日常生活が便利である」「落ち着きと安らぎがある」が上位に挙げられており，こうした豊かな自然環境や生活環境の良さが住み心地や愛着につながっていると考えられる。その一方で，龍ケ崎市のもの足りないところ，嫌いなところでは「交通の便が悪い」「活気とにぎわいがない」「将来の発展が期待できない」「都市としての個性や特徴がない」が上位に挙げられており，今後も継続して対応していく必要があると考えられる。

龍ケ崎市への定住意向については，住み続けたいという人は平成 20 年度の調査以降，約８割で推移しており，今回調査では，前回調査（平成 26 年度）に比べて，1.1 ポイント低くなっている。龍ケ崎市の魅力については，魅力あるまちになってきたと感じる人は約３割（27.0%）となっており，前回調査（平成 26 年度）に比べて，3.8 ポイント低くなっている。

龍ケ崎市はふるさとであるという意識については，愛着がある人が約６割（58.4%）であり，平成 22 年度の調査以降，愛着がある人が増加傾向を示している。

市全体の印象については，評価が低い（足りないところ・嫌いなところ）項目に対する取り組みを進めていくとともに，評価が高い項目である豊かな自然環境や，地域の安全性，日常生活での利便性など生活環境の維持・より一層の向上を図ることで，龍ケ崎市としての魅力や愛着を高めていき，市民が住み続けたい，市外の人々が龍ケ崎市に住みたいと思える環境づくりを進めていく必要があると考えられる。

### Ⅲ．龍ケ崎市での暮らしについて

龍ケ崎市での暮らしにおいて，不満度の高い項目は「鉄道やバスなど公共交通機関の利便性」「見どころ・楽しみどころの発掘など観光の振興」「商店街の活性化など商業の振興」「路上駐車や放置自転車対策」「街並みの美しさ」となっており，前回調査（平成 26 年度）と比べて，上位に挙がっている項目に変化はない。

また，今後，優先的・重点的に取り組むべき項目では「鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性」「病院・医院の数と夜間・休日などの医療サービス体制」「台風や地震など自然災害への対策」「お年寄りが生活しやすい施設・サービス」「犯罪や非行防止などの治安対策」が上位に挙げられている。

今回調査で得られた各項目に対する満足度や不満度，優先度・重点度を踏まえながら，施策や事業等を展開していく必要があると考えられる。

現在の暮らしのなかでの不安については，前回調査（平成 26 年度）と同様，「自分の老後・将来」が第１位となっており，次いで「水害や地震などの自然災害」「自分や家族の健康」「安定した収入の確保」となっている。「水害や地震などの自然災害」は，前回調査よりも 6.0 ポイント高くなっており，東日本大震災をはじめとして近年，多発している自然災害等に対する不安が高まってきているものであると考えられる。

## Ⅳ．龍ケ崎市のまちづくりについて

龍ケ崎市は子育てしやすいまちであるかについては，子育てしやすいと感じている人は約４割（39.9%）となっている一方で，子育てしにくいと感じている人は約１割（8.1%）となっている。

市民活動やボランティア活動への参加については，「清掃・環境美化活動」が最も多く，次いで「子ども会活動」となっている一方で，「活動したことがない」は約３割（28.0%）を占めている。

これからの龍ケ崎市のまちづくりについては「みんなが元気に暮らせる医療体制や福祉サービスが充実したまち」「災害に強く，犯罪が少ない安心・安全なまち」「交通や買い物環境などが充実した生活に便利なまち」など，これからの少子・高齢化社会に対応したまちづくりや市民が日常生活を営んでいく上で重要な生活環境が整ったまちづくりが期待されている。

龍ケ崎市の今後の土地利用のあり方については，「新たな土地利用策を考えるべきである」や「企業等の進出意向に応じて考えていくべきである」と捉えている人が約８割を占めている。

## Ⅴ．その他，個別の課題について

### 1. まちのイメージについて

龍ケ崎で思い浮かぶものについては，「撞舞」が最も多く，次いで「田舎」「コロッケ」「田んぼ」の順となっており，本市の有する伝統行事や豊かな自然環境などが挙げられている。こうした環境の保存・保全を図りながら，本市の持つ資源として積極的に活用していく必要がある。

龍ケ崎市を色で表現した場合に思う浮かぶ色については，「緑色・黄緑色」が最も多く，次いで「青色・水色」「紫色」が上位に挙げられている。市の有する森林や緑地等に代表される緑環境，牛久沼や市内を流れる河川等に代表される水辺環境などの豊かな自然環境が本市のイメージカラーにつながっていると思われる。

### 2. 市役所からの情報発信について

市役所からの情報発信については，約７割の人が必要とする情報は得られていると感じている。情報を得る手段については，広報龍ケ崎「りゅうほー」が９割を超えており，記事の内容や見やすさについては，約５割の人が満足していると回答している。

政策情報誌「未来へ」については，前回調査（平成 26 年度）では，知らない人が５割を占めていたが，今回調査では知らない人が約３割と，認知度が上がっていることが伺える。

市公式サイト（ホームページ）については，「見たことがない」人が約４割を占めている。市公式サイト（ホームページ）で閲覧する情報は，「くらし・生活情報」が最も多く，次いで「健康情報」「観光・イベント情報」が上位に挙げられている。

### 3. 喫煙について

現在の喫煙については，吸っていない人が８割を超えている。また，受動喫煙については約８割の人が理解している一方で，約２割の人が理解不足となっていることから，健康づくり等と連携を図りながら，啓発を推進していく必要があると考えられる。

### 4. 流通経済大学との連携事業（龍・流連携事業）について

龍・流連携事業については市民の連携事業に対する認知度や参加状況は低かったものの，龍・流連携事業での公開講座，健康づくり分野での連携事業，講師の派遣や教育環境の充実に向けた支援，施設の開放等について関心が高いことから，参加に向けた情報提供及び発信等の強化を図っていく必要があると考えられる。

### 5. 公共交通について

外出する際の交通手段については，「自動車（自分で運転）」が最も多く，次いで「鉄道（ＪＲ）」となっており，18～20 歳では鉄道（ＪＲ）が主な交通手段となっている。

公共交通を利用しない理由，利用する人の不満や不便に感じることについては，「便数が少なく乗りたい時間に運行していない」が最も多く，次いで「他の手段（自動車・バイク等）が便利」となっている。

学生や高齢者においては，公共交通の利用は高くなっていることから，スムーズな利用が促進される整備が必要であるとともに，県内外からの来訪者にとっても利用しやすい公共交通が龍ケ崎市の発展に必要であると考えられる。

### 6. 安全・安心について

コンビニエンスストア店舗内や小中学校の敷地の屋外にＡＥＤ専用収納ボックスが設置されていることの認知度については，設置されていることを知っている人が約７割となっている一方で，知らない人が約２割となっている。

地域の治安に不安を感じることがあるかについては，不安を感じる人が約６割と不安を感じない人を大きく上回っている。不安を感じる点については，「近所で不審者情報が多い」「交番，駐在所が近くにない」「防犯灯が少ない，暗い」が上位に挙げられており，これらの項目は自由意見でも多く見受けられた項目である。不審者情報のメール配信やパトロールの強化，夜間の安全面への対策を講じていく必要があると考えられる。

### 7. 市役所の利便性と市職員の接遇等について

１年以内で，市役所を利用したり，電話で問合せをしたことがあるかについては，「ある」が７割を超えている。市職員の対応については，良いと感じている人は約７割となっている。また，市職員の身だしなみについては，良いと感じている人は約６割となっている。

市役所を利用する際，どのような点で不便を感じるかについては，「どの課が何を担当しているのかわかりにくい」「開庁時間が短い」「駐車場が狭い」が上位に挙げられている。市民にとってわかりやすい案内を心がけるとともに，各種手続き等がスムーズに行えることが必要であると考えられる。